

平成 21 年度推薦入試（生活科学科 食物栄養専攻）解答例

【採点のポイント】

- ・ 提示されたキーワードの意味を正確に理解し、用いていること。
- ・ 日本における米の生産や消費について幅広い観点でとらえることができていること。
- ・ 文章構成に一貫性があり、自分の考えが述べられていること。

【解答例】

日本における米の生産については、食料としての米を生産するばかりではなく、日本の文化の基礎となっている水稲耕作を維持・発展させる必要がある。また、国産米をより安全で安心な食べ物として持続的に生産することができるような施策が講じられる必要がある。たとえば、産直運動によって消費者と連携して水稲耕作を維持する仕組みを構築したり、政府によって生産コストをまかなうだけの米の価格を保障するなどの手立てを講じたりする必要がある。

一方、生産現場を担う人たちが高齢化しており、後継者の育成が急務である。若者や中高年の離職者などが積極的に新規に就農するような支援策が求められる。

さらに、米だけではなく、食料自給率をあげることによって、日本の農業を振興させることが地域の農業を活性化させることにつながるものと思われる。

米の消費についてしてみると、古来より、日本は米を主食とした食文化を持っていたが、第2次世界大戦後、食の洋風化が急速に進み、日本人の米離れが進んでいる。こうして、パンなどの小麦製品、牛肉・牛乳などの動物性食品、脂質の摂取が著しく増加した。特に学校給食では主食をパンにすることで効率化が図られた反面、子供たちの米離れを加速することになった。

その結果、ご飯、みそ汁、主菜、副菜のそろった献立によって、糖質・脂質・タンパク質のバランスが取れた日本型食生活が次第にそこなわれるようになってきた。肥満、高血圧、糖尿病などの生活習慣病につながるメタボリック症候群が増え、問題となっている。

国民全体を対象とした食育の推進や、米飯給食などを用いた栄養教諭による学校での食育の推進により、日本型食生活を普及させる必要がある。これに伴って、米の消費拡大も期待することができる。

また、米粉を用いたパンなど、米製品の開発や、外国への米の販売などによって米の生産と消費を拡大していくこともできるかもしれない。（791字）